

広報 たか せ

第232号

令和6年9月1日

日田市高瀬公民館

館長 高田 義友

主事 荒倉 寿也

電話：24-2705

FAX：24-4075

久住登山に挑戦

8月9日(金)、みどりの少年団のメンバー20名が久住山で登山を行いました。暑さが続く中、自然と向き合いながら、全員が力を合わせて山頂を目指しました。

今回の登山では、20名のうち16名が山頂を目指し、見事に全員が登頂に成功しました。険しい道を進む中、子どもたちは互いに励まし合いながら、一歩一歩進んでいきました。頂上からの景色を前にしたとき、子どもたちは達成感に満ちた笑顔を見せていました。「山登りは大変だったけど、頂上からの景色が最高だった」「仲間と一緒に登れてよかった」と、子どもたちからは満足の声が聞かれました。今回の登山は、自然への理解を深めるとともに、仲間との絆を強める貴重な経験となりました。



九重夢大吊橋にて

達成感で胸がいっぱい(牧ノ戸)

久住別れでお昼ごはん

アスレチックで一休み

頂上を仲間と目指して

頂上到着

第21回 高瀬三世代 ふるさと祭り テーマ『6年ぶりの感動再会』

とき：令和6年10月20日(日)
9：45～

ところ：高瀬公民館・高瀬小学校
【問い合わせ先】

高瀬三世代ふるさと祭実行委員会
☎24-2705 (高瀬公民館)

夏休み学び塾

夏休み学び塾が、無事に10日間のプログラムを終えました。今年4年生から6年生までが参加し、それぞれが課題に一生懸命取り組みました。最終日には、民生委員の皆さんが心を込めて作ってくれたカレーライスをみんなで食べ、今年の学び塾は笑顔で幕を閉じました。「この10日間で自分の課題に集中できた」「分からなかったところが理解できて良かった」といった感想が子どもたちから聞かれ、楽しい締めくくりとなりました。



おかわりしました!!

真剣に取り組んでいます。

【高瀬の歴史コラム】

第3回 高瀬の古代1～旧石器時代

高瀬史編修委員会では、以前活動していました「高瀬ふるさと学」や「高瀬の歴史」などの資料を整理して歴史的につながりのあるものになりたいと思い活動しています。今回は、旧石器時代の高瀬について少し紹介します。

世界的には、始まりが約200万年前とも約260万年前ともいわれ、それから1万3千年前または、1万2千年前までの時期だと考えられています。旧石器とは、石をたたいて割って作った打製の石器のことをいいます。これを主に使って、狩りや木の実などを採取集して生活していました。気候は、寒い氷期と比較的暖かい間氷期が繰り返されていました。

日本列島では、氷期に海面が低くなり日本列島の一部が大陸とつながりました。その時期にマンモスやナウマンゾウ、大型のシカなどが大陸より移動し、ヒトもそれを追って来たようです。それは旧石器時代後期の約3万8千年前ごろといわれています。

日田においては3万4千年前の五馬高原周辺の遺跡から焚火や石器を作った跡が確認されています。高瀬では、上野の浄水場付近にある「上野第1遺跡」から旧石器のナイフ形石器や剥片尖頭器などが出土しており、この周辺で狩りをしていたことが推測できます。また、大宮町のバイパス交差点付近の「手崎遺跡」からは、小石核や台形様石器などの打製の石器が採集されています。

この年代の五馬台地の遺跡や石井の長者原遺跡、平野遺跡などの出土物と考えあわせれば、当時の高瀬の人々も高瀬や石井、大山などの山々で動物を追いながら狩猟を行い、木の実などを採取集し、季節や自然環境に合わせて上野第1遺跡や手崎遺跡のような場所に一定期間キャンプをしながら移動生活をしたと想像できます。

このようなキャンプ地は、高瀬川、大山川、三隈川を見下ろす高台で、湧水が近くにある場所が多いようです。皆さんの家の周りでそんなところはありませんか。興味のある方、ご意見をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

- *ナイフ形石器：ナイフのようにものを切るために用いられたと考えられる。
- *剥片尖頭器：ナイフ形石器の一種で先がとがっていて槍先に用いられたと考えられる。
- *小石核：石器をたたいて作ったときの残りの原石。
- *台形様石器：槍の先につける台形型の石器。動物を捕獲するときに刺したりしたと考えられる。



大宮町バイパス交差点付近



上野浄水場付近

(文 高瀬史編修委員会 高田義友 / 資料・協力 日田市文化財保護課)